

2021年6月25日
株式会社 TwoFive

TwoFive、不審メールの送信を事業者へ知らせる通報機能を なりすましメール検知支援クラウドサービス「DMARC / 25 Analyze」に追加

DMARC レポートを分析・可視化して被害を未然に防ぐだけでなく
不正利用が疑われる IP アドレス管理者に通報

メッセージングセキュリティのリーディングカンパニーである株式会社 TwoFive（本社：東京都中央区、社長 末政 延浩）は、なりすましメール検知支援クラウドサービス「DMARC / 25 Analyze」に、新機能「なりすまし通報機能」を追加したことを発表しました。

「DMARC / 25 Analyze」は、送信ドメイン認証技術 DMARC（ディーマーク）の認証結果レポートを、集計・可視化して解析するサービスで、新しく追加した「なりすまし通報機能」は、「DMARC / 25 Analyze」でなりすましの疑いのある IP アドレスを検出した場合に、組織や ISP の不正利用報告窓口に通報する機能です。攻撃者の特定に役立つ情報を IP アドレス管理者に提供することで、攻撃者の利用停止を促進することが可能となり、なりすましメール撲滅に寄与します。

DMARC は、送信ドメイン認証（SPF、DKIM）と組み合わせて使用する認証技術で、SPF/DKIM 認証に失敗したメールを受信側がどう処理するかの推奨アクション（隔離する、拒否するなど）を、送信元（ドメイン管理側）が DMARC ポリシーとして設定。受信側はそれを参照して、ポリシーに従ったアクションを実行し、その結果を DMARC レポートとして送信側にフィードバックする仕組みです。

「DMARC / 25 Analyze」は、受信側から提供される膨大な XML 形式の DMARC レポートを集計して分かりやすく可視化して解析するクラウドサービスで、送信側の組織は、自身のメールアドレス（ドメイン）が不正利用されていないかを確認することができます。万一不正利用されたことが発見された場合には、不正メールを受信する可能性のある顧客やビジネスパートナーに警告通知するなどにより、被害を抑止することができます。

「DMARC / 25 Analyze」は、現在、月間約 30 億通以上の認証結果を解析しており、セキュリティ担当者やメール管理者から高い評価をいただいておりますが、検出したなりすましメール送信に対して何もアクションしないことに課題やストレスを感じる既存ユーザーが多く、今回の新機能「なりすまし通報機能」の提供開始に至りました。

新機能「なりすまし通報機能」は、攻撃者が、「DMARC / 25 Analyze」を導入している企業のドメインをなりすましてメールを送信すると、送信ドメイン認証（SPF、DKIM）に失敗したメール（なりすましメール）として情報が記載された DMARC レポートを解析し、不正利用が疑われる IP アドレスの不正利用報告窓口「DMARC / 25 Analyze」からメールで通報する機能です。

実在するメールアドレスを悪用して、マルウェアに感染させたり、ID／パスワードなどの重要情報を騙し取るフィッシングメール（なりすましメール）の被害が後を絶たず、偽の口座に直接金銭を振り込ませるなどの実害も発生しています。なりすましの手口は年々巧妙化し、受信者が見分けるのは非常に困難になっていることから、人の判別が難しいなりすましメールを識別して被害を未然に防ぐために、SPF/DKIMとDMARCを組み合わせた送信ドメイン認証の仕組みが重要となります。

また、送信ドメイン認証は送信・受信側双方の仕組みが連動して成立する技術であり、メールを利用するすべての組織がこの仕組みに参加し、なりすましメール対策の包囲網を形成していかなければなりません。

TwoFive は、送信ドメイン認証の導入に関して、幅広くコンサルティングや支援サービスを提供しており、特に、DMARC に関しては、送信側の DMARC レポート可視化サービス「DMARC / 25 Analyze」、受信側の DMARC レポート作成サービス「DMARC / 25 Reporter」を提供することで DMARC エコシステムの形成に尽力しています。そして、今回追加した新機能「なりすまし通報機能」は、なりすましの被害を防ぐだけでなく、攻撃者の利用停止措置に向けた取り組みのひとつです。

また、TwoFive は、DMARC の普及促進策の一環として、「DMARC / 25 Analyze」を、メールシステムの規模を問わず 1 ヶ月間無料お試しできる無料トライアルサービスを実施しています。

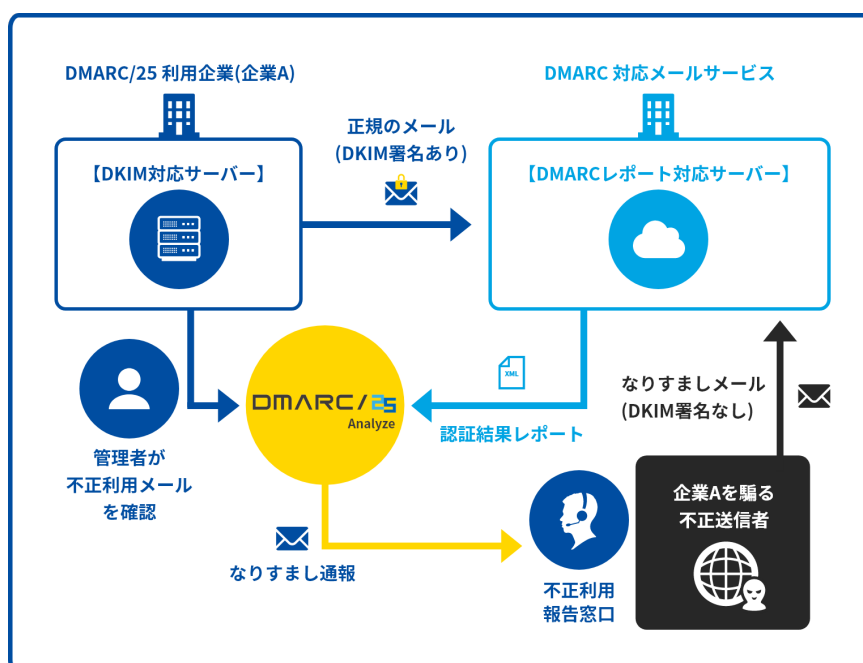
さらに、「DMARC / 25 Analyze」開発 4 周年を記念して、1 カ月間の無料トライアル後、初期費用無料、2 カ月間の利用料無料、有償の診断サービス 1 回無料でご導入いただけるキャンペーンを、本日 6 月 25 月から 2021 年 10 月 31 月まで実施します。

キャンペーンの詳細は以下をご参照ください。

https://www.twofive25.com/news/20210625_dmarc25_campaign.html

●なりすまし通報機能の概要

DMARC レポートが特定条件を満たす場合に、不正利用が疑われる IP アドレスの連絡先に対してメールで通報



◆なりすまし通報機能の提供について

◇提供開始：2021年6月25日

TwoFive、および同社のパートナー経由でご提供

※TwoFiveのパートナーは以下をご参照ください。

<https://www.twofive25.com/company/>

◇提供形態：「DMARC/25 Analyze」の Professional プランの有料オプションサービスとして提供

※「DMARC/25 Analyze」の各プラン詳細は以下をご参照ください。

<https://www.twofive25.com/service/dmarc25.html>

◇その他：現時点では、海外のプロバイダーを対象に、ARF (Abuse Reporting Format) に基づくメールで不正利用情報を提供します。

◆DMARC / 25 サービスの概要

◇DMARC / 25 Analyze

メール受信側の認証結果を報告する DMARC レポートは、多数のメール受信サーバーが 24 時間ごとに生成する膨大な情報を XML 形式で提供されるので、認証状況を迅速に判断するためには、集計して分かり易く可視化する必要があります。「DMARC / 25 Analyze」は、メールを送信するすべての企業や団体が、特別な専門知識がなくても DMARC レポートを適切に活用できるように支援します。「DMARC / 25 Analyze」サービスは、ソフトウェアライセンスの購入や設備投資は不要で、簡単な設定だけですぐに使用開始できます。

◇DMARC/25 Reporter

受信側が DMARC 対応させるためには、DMARC レポートを作成する機能をメールサーバーに実装します。アプライアンスをはじめとする最近のメールサーバーは、DMARC レポート作成機能を搭載する製品もありますが、国内で稼働中のメールサーバーの大半はその機能を備えていないことから、メール受信側の DMARC 対応が進んでいません。

「DMARC/25 Reporter」は、受信メールサーバーに DMARC レポート作成機能がなくても、DMARC 認証結果レポートを送信可能にするクラウドサービスです。

※「DMARC / 25」について以下の Web サイトもご参照ください。

<https://www.twofive25.com/service/dmarc25.html> (サービス概要)

<https://www.dmarc25.jp/> (DMARC / 25 ブランドサイト)

<https://www.naritai.jp/> (なりすまし対策ポータルサイト)

■ 株式会社 TwoFive 社について

<https://www.twofive25.com/>

株式会社 TwoFive は、大手 ISP、ASP、携帯事業者、大手企業の大規模電子メールシステムインフラの構築・サポートで長年経験を蓄積した技術者集団により、メールシステムの構築、メールセキュリティ、スレッドインテリジェンスを事業の柱として 2014 年に設立。国内外の優れた製品/ソリューションに技術サービスを組み合わせ提供してきました。現在は、所属する業界団体や関連サービスの提供ベンダーと協業し、メールシステムだけでなく、多様なメッセージング分野の新しい課題に取り組んでいます。また、海外ベンダーとの充実したネットワークを活かして、メッセージング分野に限定せず、日本の DX を支える優れた製品・ソリューションを日本市場に紹介しています。東京本社その他、ハノイにベトナム支社があり、開発、サポートを行っています。

■ 報道関係者お問い合わせ

株式会社 TwoFive

担当：加瀬 080-9805-0025

info@twofive25.com

※読者お問い合わせ先は以下をご掲載ください。

info@twofive25.com TEL : 03-5704-9948

記載されている会社名、製品名は各社の商標です。